

ベニヒカゲ (本州亜種)

Erebia neriene nipponica Janson
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】 準絶滅危惧

選定理由

県内では三ノ峰にのみ生息し、生息域が非常に限られる。全国的に、登山客の増加による登山道整備や植生の踏み付け、ササの侵入による植生の変化等による悪影響がみられるようである。

種の特徴

本県に生息する唯一の高山蝶。表は濃茶褐色で、外中央には橙色帯があり、その内部には眼状紋または黒斑が並ぶ。高山草原、高標高地の湿原や林縁草地等に生息し、年1回、8月～9月頃に成虫が発生する。ヒメノガリヤスやホンモンジスゲ等を食草とする。

分 布

本州の東北地方～中部地方の1,500m以上の山地に生息。県内では三ノ峰が唯一の生息地で、標高1,450mあたりから上の草地でみられる。三ノ峰が分布の西限。

生息を脅かす要因

三ノ峰一帯は国立公園の特別保護地区にあり、保護策がとられているが、登山客の増加に伴う生息環境への影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課(2002)、環境省(2015)、日本チョウ類保全協会(2012)、白水(2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

スゲドクガ

Laelia coenosa (Hübner)
チョウ目・ドクガ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】 準絶滅危惧

選定理由

湿地に生息するガで、全国的に湿地の減少に伴い少なくなっている。今回、湿地周辺でライトトラップによる調査を行ったが、本種は確認できていない。

種の特徴

開張はオス31～37mm、メス40mm内外。オスは前翅が淡黄褐色で、黒褐色の点列があることがある。メスは白色で無紋。年2化、成虫は5～6月と8～9月に出現する。食草はマツカサススキ、ヒメガマ、ヨシ。湿地のガとして知られる。

分 布

北海道、本州に分布。県内では大野郡上味見に戦前の記録、大野市鳩ヶ湯、小浜市遠敷に1950年代の記録がある。敦賀市黒河国有林で1993年の採集記録がある。

生息を脅かす要因

開発等による湿地環境の悪化により、県内でも本種の生息環境は悪化していると考えられる。調査の継続により生息状況を把握し、保護対策を立てていく必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県博物館(1938)、井崎(1971)、環境省(2015)、岸田(2011b)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○										○	

キスジウスキヨトウ

Capsula sparganii (Esper)
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】 新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】 絶滅危惧II類

選定理由

湿地環境の指標種で、絶滅のおそれのある種として選定している県が多い。

種の特徴

開張29～44mm。前翅は赤褐色の地に暗色鱗片を全体に散布する。後翅は黄白色～褐色まで変異がある。湿地に生息する。年1化、成虫は6月下旬～9月に出現。食草はガマ、ミクリ。

分 布

北海道～九州に分布。県内では1996年に敦賀市中池見ではじめて確認され、2014年にあわら市北潟でも採集された。

生息を脅かす要因

湿地開発が脅威となる。

参考文献 福井昆虫研究会幹事会(2008)、環境省(2015)、岸田(2011b)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				

昆虫類